

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
福島県動物愛護管理推進計画 令和6年3月 福島県	福島県動物愛護管理推進計画 令和3年3月 福島県	(表紙)
<p>1 <u>改定の趣旨</u> ページ1</p> <p>2 <u>計画の特徴</u> ページ2</p> <p> (1) <u>計画の期間</u></p> <p> (2) <u>計画の対象地域</u></p> <p> (3) <u>計画の進行管理</u></p> <p> (4) <u>計画の位置付け</u></p> <p>3 <u>動物愛護管理の施策を推進するための基本方針</u> ページ3</p> <p>4 <u>計画に関わる様々な立場の者の役割と責務</u> ページ4-5</p> <p>5 <u>現状と課題を踏まえた施策等の方向</u> ページ6-10</p> <p> (1) <u>動物愛護と適正飼養の普及啓発の推進</u> ページ6-8</p> <p> (2) <u>動物取扱業者の意識向上</u> ページ8</p> <p> (3) <u>連携と協働の推進</u> ページ8-9</p> <p> (4) <u>災害対策</u> ページ9-10</p> <p>6 <u>具体的施策の展開</u> ページ11-17</p> <p> (1) <u>動物愛護センター等の活用</u> ページ11</p> <p> (2) <u>動物愛護の普及</u> ページ11</p> <p> (3) <u>動物の適正飼養の推進</u> ページ11-13</p> <p> (4) <u>所有者の判明しない猫の引取り数の削減</u> ページ13</p> <p> (5) <u>返還・譲渡の推進</u> ページ13-14</p> <p> (6) <u>犬及び猫の殺処分の削減</u> ページ14</p> <p> (7) <u>人材育成の充実</u> ページ14</p> <p> (8) <u>連携と協働の推進</u> ページ14-15</p>	<p>1 <u>これまでの取り組みと改定の趣旨</u> ……1</p> <p>2 <u>計画の期間</u> ……1</p> <p>3 <u>計画の対象地域</u> ……1</p> <p>4 <u>計画の進行管理</u> ……1</p> <p>5 <u>動物愛護管理の施策を推進するための基本方針</u> ……2～3</p> <p>6 <u>県民の役割と事業者、行政の責務</u> ……3～4</p> <p>7 <u>現状と課題を踏まえた施策等の方向</u> (4～9)</p> <p> (1) <u>動物愛護と適正飼養の普及啓発の推進</u> ……4～7</p> <p> (2) <u>動物取扱業者の意識向上</u> ……7</p> <p> (3) <u>連携と協働の推進</u> ……7～8</p> <p> (4) <u>災害対策</u> ……8～9</p> <p>8 <u>具体的施策の展開</u> (9～18)</p> <p> (1) <u>動物愛護センター等の活用</u> ……9～10</p> <p> (2) <u>動物愛護の普及</u> ……10</p> <p> (3) <u>動物の適正飼養の推進</u> ……10～13</p> <p> (4) <u>所有者の判明しない猫の引取り数の削減</u> ……13</p> <p> (5) <u>返還・譲渡の推進</u> ……13～14</p> <p> (6) <u>犬及び猫の殺処分の削減</u> ……14</p> <p> (7) <u>人材育成の充実</u> ……14～15</p> <p> (8) <u>連携と協働の推進</u> ……15</p>	(目次)


福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>(9) 動物取扱業者等に対する立入指導 ページ 15-16</p> <p>(10) 実験動物の適正な取扱いの推進 ページ 16</p> <p>(11) 産業動物の適正な取扱い推進 ページ 16</p> <p>(12) 災害時の救護対策の推進 ページ 16-17</p> <p>7 目標の設定 ページ 18</p> <p>別表1 動物愛護管理業務実績 ページ 19-20</p> <p>別表2 施策等の数値目標（指標毎の実績推移グラフを含む。） ページ 21-22</p>	<p>(9) 動物取扱業者等に対する立入指導 ・・・15～16</p> <p>(10) 実験動物の適正な取扱いの推進 ・・・16～17</p> <p>(11) 産業動物の適正な取扱いの推進 ・・・17</p> <p>(12) 災害時の救護対策の推進 ・・・17～18</p> <p>9 目標の設定 ・・・18</p> <p>別表1 動物愛護管理業務実績 ・・・19～20</p> <p>別表2 施策等の数値目標（推移グラフを含む。） ・・・21～22</p>	
<p><u>福島県動物愛護管理推進計画</u></p> <p>1 改定の趣旨</p> <p>少子高齢化、核家族化が進む中で、動物を飼養する世帯において犬や猫などの愛玩動物は、家族の一員や伴侶動物（コンパニオンアニマル）として生活に欠かせない存在となってきました。</p> <p>しかし、その一方で、飼い主における動物の生理、生態、習性等に関する知識不足や適正飼養に関するモラルの欠如により、動物の遺棄や虐待、近隣住民からの苦情やトラブルなど、様々な問題が顕在化しています。</p> <p>本計画は、このような問題を減らし、人と動物とが共生する社会の実現に向けて、県の基本的な方向性及び中長期的な目標を明確化するとともに、動物愛護管理施策を総合的かつ計画的に推進するため、動物の愛護及び管理に関する法律（以下、「動物愛護管理法」という。）第6条の規定に基づき策定するものです。</p> <p><u>なお、令和2年4月30日に、国の「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針（以下、「基本指針」とい</u></p>	<p><u>福島県動物愛護管理推進計画</u></p> <p>1 これまでの取り組みと改定の趣旨</p> <p>少子高齢化、核家族化が進む中で、動物を飼養する世帯において犬や猫などの愛玩動物は、家族の一員や伴侶動物（コンパニオンアニマル）として生活に欠かせない存在となってきました。</p> <p>しかし、その一方で、飼い主における動物の生理、生態、習性等に関する知識不足や適正飼養に関するモラルの欠如により、動物の遺棄や虐待、近隣住民からの苦情やトラブルなど、様々な問題が顕在化しています。</p> <p>本計画は、このような問題を減らし、人と動物とが共生する社会の実現に向けて、県の基本的な方向性及び中長期的な目標を明確化するとともに、動物愛護管理施策を総合的かつ計画的に推進するため、動物の愛護及び管理に関する法律（以下、「動物愛護管理法」という。）第6条の規定に基づき策定するものです。</p> <p><u>なお、令和2年4月30日に、国の「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針（以下、「基本指針」と</u></p>	(本文)

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>う。）」が改正されたことから、その内容を踏まえて、計画の一部の見直しを行いました。</u></p> <p><u>今回、平成26年4月を始期とする本計画が令和6年3月に満期を迎えることから、令和2年4月に改正された国の「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針」及びこれまでの計画の実績評価と課題分析結果を踏まえ、今後取り組まなければならない施策について、10年間の計画を新たに策定するものです。</u></p> <p>2 計画の<u>特徴</u></p> <p><u>(1) 計画期間</u></p> <p>計画の期間は、<u>令和6</u>年4月1日から令和<u>16</u>年3月31日までの10年間とします。</p> <p>なお、本県の実情や国が定める基本指針の見直しなどを踏まえ、必要に応じ改定を行います。</p> <p><u>(2) 計画の対象地域</u></p> <p>計画の対象地域は、中核市（福島市、郡山市、いわき市）を含む福島県全域とします。</p> <p><u>中核市は、県と同様に法令に基づき動物の愛護及び管理に関する業務を実施しており、県は中核市と連携して計画の目標達成に向けて施策を推進します。</u></p>	<p><u>いう。）」が改正されたことから、その内容を踏まえて、計画の一部の見直しを行いました。</u></p> <p>2 計画の<u>期間</u></p> <p>計画の期間は、<u>平成26</u>年4月1日から令和<u>6</u>年3月31日までの10年間とします。</p> <p>なお、本県の実情や国が定める基本指針の見直しなどを踏まえ、必要に応じ改定を行います。</p> <p><u>3</u> 計画の対象地域</p> <p>計画の対象地域は、中核市（福島市、郡山市、いわき市）を含む福島県全域とします。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
 <p>(3) 計画の進行管理 県は、動物の愛護及び管理に関し実施する各種施策の進捗状況を「福島県動物愛護推進懇談会」へ毎年報告し、本会の意見を聴きながら、計画の進行管理を行います。 また、法改正や基本指針の改正、社会情勢の変化等に柔軟に対応するため、必要な変更を行うとともに、5年ごとに施策の実施状況等を踏まえ、評価と必要な見直しを行います。</p> <p>(4) 計画の位置付け <u>動物愛護管理法に基づき策定している本計画は、県が定める「福島県総合計画」及びその部門別計画である「福島県保健医療福祉復興ビジョン」の個別計画にも位置付けられています。</u></p> <p>3 動物愛護管理の施策を推進するための基本方針</p>	<p>4 計画の進行管理 県は、動物の愛護及び管理に関し実施する各種施策の進捗状況を「福島県動物愛護推進懇談会」へ毎年報告し、本会の意見を聞きながら、計画の進行管理を行います。 また、法改正や基本指針の改定、社会情勢の変化等に柔軟に対応するため、必要な変更を行うとともに、5年ごとに施策の実施状況等を踏まえ、評価と必要な見直しを行います。</p> <p>5 動物愛護管理の施策を推進するための基本方針</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>動物の愛護とは、人においてその命が大切なように、動物の命においてもその尊厳を守ることにより、動物をみだりに殺し、傷つけ又は苦しめることのないように取り扱うことや、その生理、生態、習性等を考慮して適正に取り扱うことです。</p> <p>また、人と動物とは生命的に連続した存在であるとする考え方や生きとし生けるものを大切にすることを踏まえ、動物の命に対して感謝及び畏敬の念を抱くとともに、この気持ちを命あるものである動物の取扱いに反映させることです。</p> <p>動物が人と一緒に生活する存在として社会に受け入れられるためには、全ての動物の所有者又は占有者は、その社会的責任を十分自覚し、人と動物との関わりについても十分に考慮した上で、その飼養及び保管を適切に行うことが求められています。</p> <p>県民が動物に対して抱く意識及び感情は、千差万別であり、個々人における動物の愛護及び管理の考え方は、いつの時代にあっても多様であるため、万人に共通して適用されるべき社会的規範としての動物の愛護及び管理の考え方は、普遍性及び客観性の高いものであるとともに、県民の合意の下に形成していくことが必要です。</p> <p>基本理念</p> <p>・<u>広く県民の間に動物を愛護する気風を招来するため、県民、動物の飼い主、動物愛護ボランティア、動物取扱業者、行政など計画に関わる様々な立場の者</u>が連携、協働して動物の愛護と福祉の向上に取り組みます。</p> <p>視点</p> <p>・<u>県民の健康と安全の確保及び周辺的生活環境の保全</u></p>	<p>動物の愛護とは、人においてその命が大切なように、動物の命においてもその尊厳を守ることにより、動物をみだりに殺し、傷つけ又は苦しめることのないように取り扱うことや、その生理、生態、習性等を考慮して適正に取り扱うことです。</p> <p>また、人と動物とは生命的に連続した存在であるとする考え方や生きとし生けるものを大切にすることを踏まえ、動物の命に対して感謝及び畏敬の念を抱くとともに、この気持ちを命あるものである動物の取扱いに反映させることです。</p> <p>動物が人と一緒に生活する存在として社会に受け入れられるためには、全ての動物の所有者又は占有者は、その社会的責任を十分自覚し、人と動物との関わりについても十分に考慮した上で、その飼養及び保管を適切に行うことが求められています。</p> <p>県民が動物に対して抱く意識及び感情は、千差万別であり、個々人における動物の愛護及び管理の考え方は、いつの時代にあっても多様であるため、万人に共通して適用されるべき社会的規範としての動物の愛護及び管理の考え方は、普遍性及び客観性の高いものであるとともに、県民の合意の下に形成していくことが必要です。</p> <p>基本理念</p> <p>広く県民の間に動物を愛護する気風を招来するため、県民、<u>動物関係事業者</u>、行政が連携、協働して動物の愛護と福祉の向上に取り組みます。</p> <p>視点</p> <p>① <u>県民の健康と安全の確保及び周辺的生活環境の保全</u></p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>ペット動物や特定動物の適正な管理と動物由来感染症に関する正しい知識の啓発に努め、県民の健康と安全を守ります。</p> <p>また、生活環境被害の防止や犬又は猫の適正飼養の観点から、所有者の判明しない犬又は猫に対する後先を考えない無責任な餌やり行為が望ましくないことについて普及啓発を推進します。</p> <p>・人と動物の共生</p> <p>飼い主の動物愛護と適正飼養に関する意識の向上を図るとともに、学校、地域、家庭等における動物愛護に対する関心と理解を深め、社会を構成する全ての当事者が、適正飼養の観点から必要な取組を推進することで、人と動物の調和ある共生の実現に取り組みます。</p> <p>・動物の愛護と福祉の向上</p> <p>動物の飼養方法と愛護に関する知識を普及し、生命尊重の気風と動物福祉の向上を図ります。</p> <p>・計画に関わる様々な立場の者の連携と協働</p> <p>地域における動物愛護の推進を図るため、<u>計画に関わる様々な立場の者</u>との連携と協働を進めます。</p> <p>4 計画に関わる様々な立場の者の役割と責務</p> <p>動物の愛護及び適正な管理は、県民の間における共通した理解の形成がなくては進み難いものです。</p> <p>人と動物の共生する社会の実現を図るためには、<u>計画に関わる様々な立場の者が、適正飼養の観点から次に掲げるそれぞれの役割や責務を果たすとともに、連携協働して取り組むことが必要です。</u></p>	<p>ペット動物や特定動物の適正な管理と動物由来感染症に関する正しい知識の啓発に努め、県民の健康と安全を守ります。</p> <p>また、生活環境被害の防止や犬又は猫の適正飼養の観点から、所有者の判明しない犬又は猫に対する後先を考えない無責任な餌やり行為が望ましくないことについて普及啓発を推進します。</p> <p>② 人と動物の共生</p> <p>飼い主の動物愛護と適正飼養に関する意識の向上を図るとともに、学校、地域、家庭等における動物愛護に対する関心と理解を深め、社会を構成する全ての当事者が、適正飼養の観点から必要な取組を推進することで、人と動物の調和ある共生の実現に取り組みます。</p> <p>③ 動物の愛護と福祉の向上</p> <p>動物の飼養方法と愛護に関する知識を普及し、生命尊重の気風と動物福祉の向上を図ります。</p> <p>④ 県民、動物関係事業者及び行政の連携と協働</p> <p>地域における動物愛護の推進を図るため、<u>幅広く県民、動物関係事業者及び市町村、関係都道府県</u>との連携と協働を進めます。</p> <p>6 県民の役割と動物関係事業者、行政の責務</p> <p>動物の愛護及び適正な管理は、県民の間における共通した理解の形成がなくては進み難いものです。</p> <p><u>そのため、人と動物の共生する社会の実現を図るためには、多くの県民の共感を呼び、幅広い層に対して自主的な参加を促していく取組を、学校、地域、家庭等において展開し、社会を構成する全ての当事者が、適正飼養の観点から必要な取組を推進することが求められます。</u></p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>なお、計画に関わる様々な立場の者及びその者が果たすべき役割や責務は、次のとおりです。</u></p> <p><u>県民の役割</u></p> <p><u>動物が命あるものであることにかんがみ、みだりに殺し、傷つけ又は苦しめることのないようにするとともに、人と動物の共生のために、その生理、生態、習性等の理解に努めてください。</u></p> <p><u>また、全ての動物の所有者又は占有者は、その社会的責任を十分自覚し、人の生命、身体又は財産の侵害や生活環境の保全上の支障を防止する必要があります。</u></p> <p><u>動物関係事業者の責務</u></p> <p><u>動物関係事業者は、社会において果たすべき役割を自ら考え、業界全体の資質の向上を図るとともに、動物の適正な飼養管理に努めてください。</u></p> <p><u>また、動物販売業者は、動物の購入者に対し、適正な飼養又は保管の方法について説明し、理解されるよう努めてください。</u></p> <p><u>行政の責務</u></p> <p><u>県民が快適で健やかな生活を送れるよう、動物の愛護と適正飼養に対する関心と理解を深めるための施策を実施し、周辺的生活環境の保全と動物による危害の防止を図ります。</u></p> <p><u>・県民の役割</u></p> <p><u>県民の中には動物を愛護する人がいる一方で、動物に対して必ずしも好意を持たない人もいます。</u></p> <p><u>このため、県民には、多様な価値観の存在を認め、互いに尊重することにより、それぞれの地域において、人と動物の調和のとれた共生社会の実現に向けた理解と協力が求められます。</u></p>	<p><u>県民の役割</u></p> <p><u>動物が命あるものであることにかんがみ、みだりに殺し、傷つけ又は苦しめることのないようにするとともに、人と動物の共生のために、その生理、生態、習性等の理解に努めてください。</u></p> <p><u>また、全ての動物の所有者又は占有者は、その社会的責任を十分自覚し、人の生命、身体又は財産の侵害や生活環境の保全上の支障を防止する必要があります。</u></p> <p><u>動物関係事業者の責務</u></p> <p><u>動物関係事業者は、社会において果たすべき役割を自ら考え、業界全体の資質の向上を図るとともに、動物の適正な飼養管理に努めてください。</u></p> <p><u>また、動物販売業者は、動物の購入者に対し、適正な飼養又は保管の方法について説明し、理解されるよう努めてください。</u></p> <p><u>行政の責務</u></p> <p><u>県民が快適で健やかな生活を送れるよう、動物の愛護と適正飼養に対する関心と理解を深めるための施策を実施し、周辺的生活環境の保全と動物による危害の防止を図ります。</u></p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>・動物の飼い主の責務</u></p> <p><u>動物の飼い主には、法令を遵守し、動物の生態や習性などを理解し、周囲に迷惑をかけることなく動物を終生飼養する責務があります。</u></p> <p><u>令和元年の動物愛護管理法の改正により、犬又は猫の所有者に対し、適正飼養が困難となる（多頭飼育崩壊に陥る）おそれがある場合に、その繁殖を防止するために、生殖を不能にする手術その他の措置を講じることが義務付けられました。</u></p> <p><u>動物の飼い主には、地域社会のルールを遵守し、飼養している動物が地域の一員として地域住民に受け入れられるよう主体的に行動していくことが求められます。</u></p> <p><u>なお、許可を得て特定動物（危険な動物）を飼養する者は、人の生命、身体又は財産に害を加えることがないよう厳格な管理を行わなければなりません。</u></p> <p><u>※特定動物とは、トラ、ニホンザル、タカ、ワニ、マムシなど（その動物が交雑することにより生じた動物を含む）、人の生命・身体・財産に害を与えるおそれのある動物をいいます。動物愛護管理法に基づき、約650種（哺乳類・鳥類・爬虫類）が選定されています。</u></p> <p><u>・動物愛護団体、動物愛護ボランティアの役割</u></p> <p><u>動物愛護活動に関わる方には、動物愛護精神の醸成に努め、可能な範囲で、飼い主への支援や県、市町村への協力を行うことが期待されます。</u></p> <p><u>・動物取扱業者の責務</u></p> <p><u>ペットショップをはじめとする第一種動物取扱業者及び動物愛護団体の保護施設等の第二種動物取扱業者は、動物愛護管理法に基づき登</u></p>		

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>録や届出を行う必要があり、法令で定められた施設や動物の取扱いの基準を遵守しなければなりません。</u></p> <p><u>また、ペットショップ等は、動物を飼い始める飼い主に対して、関係法令や動物の習性、適切な飼育方法、マイクロチップの情報管理など必要な知識の情報提供と助言を行うことが必要です。</u></p> <p><u>・県及び中核市の役割</u></p> <p><u>県（食品生活衛生課、動物愛護センター・同会津支所及び同相双支所（以下、「動物愛護センター等」という。））及び中核市（福島市、郡山市、いわき市）は、動物愛護管理の普及啓発、犬・猫の引取り、犬の捕獲、収容した犬・猫の返還・譲渡、返還や譲渡できなかった犬・猫の殺処分、動物取扱業の登録、届出の受理及び監視指導、特定動物の飼養許可、災害対策の推進などを担っています。</u></p> <p><u>本県では、「猫の引取り数と殺処分数の削減」が大きな課題となっていることから、市町村や福祉関係機関等との連携を深め、多頭飼育者への指導・助言及び地域猫活動の支援を進めます。</u></p> <p><u>県及び中核市は、動物と関わる全ての関係者と緊密に連携し、動物愛護管理の推進体制を構築します。</u></p> <p><u>・市町村（中核市を除く。）の役割</u></p> <p><u>市町村は、飼い犬の登録や狂犬病予防注射に関する業務、災害時における避難所での動物の受入れ体制の確保、動物愛護管理の普及啓発などを担っています。</u></p> <p><u>動物愛護管理の課題は地域社会に密着したものが多く、その解決には、地域の実情に応じたきめ細かな取組が不可欠です。このため、地域における飼い主のいない猫による環境被害や犬猫の多頭飼育問題に</u></p>		

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>については、県の動物愛護センター等だけでなく、福祉関係機関等とも横断的に連携し、解決に向け取り組みます。</u></p> <p><u>・県獣医師会の役割</u></p> <p><u>県獣医師会は、公益的な職能団体として動物愛護管理の獣医学的な立場から、県や市町村とともにこの計画を支援します。具体的には、犬・猫の不妊去勢手術やマイクロチップ装着等の所有明示の必要性、人と動物の共通感染症予防等の普及啓発、災害時におけるペット動物の診療等について、専門的な立場からの取組を行います。</u></p> <p><u>5 現状と課題を踏まえた施策等の方向</u></p> <p><u>(1) 動物愛護と適正飼養の普及啓発</u></p> <p><u>【現状と課題】</u></p> <p><u>●ペット動物の飼養数について</u></p> <p><u>一般社団法人日本ペットフード協会が令和4年に発表した全国犬猫飼育実態調査結果によると、犬の世帯飼育率は9.69%、飼育世帯当たりの平均飼育頭数は1.25頭とされ、猫の世帯飼育率は8.63%、飼育世帯当たりの平均飼養頭数は1.76匹（外猫の数は含まない）とされています。この結果を基に、県内総世帯数748,116世帯（令和4年10月1日時点）から県内で飼われている犬猫の数を推計すると、犬が90,616頭、猫が113,630匹となります。</u></p> <p><u>なお、令和3年度末の県内の犬の登録頭数は91,724頭で、平成19年度をピークに減少傾向を示しています。</u></p> <p><u>●不適正飼養の実態について</u></p> <p><u>・周辺環境を損なう飼い方</u></p>	<p><u>7 現状と課題を踏まえた施策等の方向</u></p> <p><u>(1) 動物愛護と適正飼養の普及啓発の推進</u></p> <p><u>【現状と課題】</u></p> <p><u>ペット動物の飼養数について</u></p> <p><u>令和元年度末の県内の犬の登録頭数は95,136頭で、平成19年度をピークに減少傾向を示しています。一方、一般社団法人ペットフード協会の報告によると、国内における猫の飼養数は増加傾向が見られ、平成29年以降、猫の飼養数は犬の飼養数を上回っていることから、県内においても、同様に猫の飼養数が増加していると推測されます。</u></p> <p><u>不適正飼養の実態について</u></p> <p><u>① 周辺環境を損なう飼い方</u></p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>令和3年度に動物愛護センター等及び中核市保健所に寄せられた犬の苦情件数は878件で、年々減少していますが、依然として鳴き声、臭気、ふんの後始末等に関する生活密着型の苦情が多い状況にあります。また、同年度の猫の苦情件数は1,035件で、横ばい傾向にあります。近年は、後先を考えない猫への無責任な餌やり行為によりみだりに増えた猫に起因する苦情が増えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身勝手な飼養管理 <p>動物愛護センター等及び中核市保健所に犬又は猫の引取りを求める飼い主は未だに後を絶たず、特に猫については、繁殖の繰り返しによる引取り依頼や、周辺住民からの苦情が依然として多い傾向にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬の不適正飼養 <p>「狂犬病予防法」では、所有者等に飼い犬の登録及び年一回の狂犬病予防注射の実施が義務付けられていますが、近年の注射の実施率は75%程度に低迷しています。</p> <p>また、飼い犬には鑑札と注射済票の装着が義務付けられていますが、装着させず狂犬病予防法に違反している飼い主がいます。</p> <p>さらに、放し飼いや管理不良による逸走等、犬のけい留を義務付けている条例に違反している飼い主も未だ多くいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫の不適正飼養 <hr/> <p>猫については、野良猫や捨て猫等に関する苦情が最も多く、次いで、ふん尿の処理等の周辺環境に関する苦情が多く寄せられていることから、繁殖制限措置、屋内飼養、終生飼養及び所有明示措置の徹底が重要となります。</p>	<p>令和元年度に動物愛護センター、同会津支所及び同相双支所（以下、「動物愛護センター等」という。）並びに中核市保健所に寄せられた犬の苦情件数は1,031件で、年々減少していますが、依然として鳴き声、悪臭、ふんの後始末等に関する生活密着型の苦情が多い状況にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 身勝手な飼養管理等 <p>動物愛護センター等及び中核市保健所に犬又は猫の引取りを求める飼い主は未だに後を絶たず、特に猫については、繁殖の繰り返しによる引取り依頼や、周辺住民からの苦情を発生させる飼い主が依然として多くいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 犬の不適正飼養 <p>「狂犬病予防法」では、所有者等に飼い犬の登録及び年一回の狂犬病予防注射の実施が義務付けられていますが、近年の注射の実施率は75%程度に低迷しています。</p> <p>また、飼い犬には鑑札と注射済票の装着が義務付けられていますが、装着させず狂犬病予防法に違反している飼い主がいます。</p> <p>さらに、放し飼いや管理不良による逸走等、条例に違反している飼い主も未だ多くいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 猫の不適正飼養 <p>近年、猫に関する苦情は増加傾向にあり、令和元年度は1,178件でした。その内、野良猫に関する苦情が最も多く、続いて捨て猫に関する苦情やふん尿の処理等に関する苦情が多く寄せられていることから、終生飼養、繁殖制限措置、所有明示措置及び屋内飼養の徹底が重要となります。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>・動物の愛護及び管理に関する知識の不足</p> <p>動物の生理、生態、習性等を正しく理解しないまま、安易に動物を飼養することで動物を苦しめたり、動物の健康を害している飼い主もいます。</p> <p>また近年は、<u>飼い主が動物の不妊去勢手術等の繁殖制限措置の必要性を理解せず、管理能力を超えるまでに数を増やし「多頭飼育崩壊に至る事例」や、核家族化の進行を背景に子供の独立や伴侶との別れなどにより単身となった飼い主やそもそも単身で暮らす飼い主の、施設への入所、入院、転居又は死亡等をきっかけに「動物が居場所を失う事例」が増えているほか、所有者の判明しない猫に対する後先を考慮しない無責任な餌やり行為による「その地域の猫をみだりに増やす事例」が各地で確認されています。</u></p> <p>さらに、動物由来感染症に関する知識の不足により、過度な動物との接触等が原因で、動物から疾病に感染することが懸念されています。</p> <p>●犬、猫の引取りについて</p> <p>・犬の引取りについて</p> <p>令和3年度の犬の引取り数は<u>544頭</u>（狂犬病予防法等に基づく捕獲<u>382頭</u>を含む。）で、<u>本計画を初めて策定した際の</u>基準値である平成18年度実績（<u>3,173頭</u>）の約1/5にまで大きく減少しています。</p> <p>そのうち飼い主からの引取りについては、飼い主の病気や死亡及び施設への入所等を理由とするものが全体の約半数を占めており、今後、高齢化社会が進む中、同様の理由で引取り依頼する事例の増加が懸念されます。</p>	<p>⑤動物の愛護及び管理に関する知識の不足</p> <p>動物の生理、生態、習性等を正しく理解しないまま、安易に動物を飼養することで動物を苦しめたり、動物の健康を害している飼い主もいます。</p> <p>また近年は、<u>繁殖制限措置の必要性を理解せず、飼養頭数が管理能力を超えてしまい、適正飼養が困難になる多頭飼育崩壊に陥るケースが増えています。</u></p> <p>さらに、動物由来感染症に関する知識の不足により、過度な動物との接触等が原因で、動物から疾病に感染することが懸念されています。</p> <p>__犬、猫の引取りについて</p> <p>①犬の引取りについて</p> <p>令和元年度の犬の引取り数は<u>673頭</u>（狂犬病予防法等に基づく捕獲<u>524頭</u>を含む。）で、基準値である平成18年度実績の約1/5にまで大きく減少しています。</p> <p>そのうち飼い主からの引取りについては、飼い主の病気や死亡及び施設への入所等を理由とするものが全体の約半数を占めており、今後、高齢化社会が進む中、同様の理由で引取り依頼する事例の増加が懸念されます。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>・猫の引取りについて</p> <p>令和3年度の猫の引取り数は1,438匹で、<u>本計画を初めて策定した際の基準値である平成18年度実績（4,031頭）の約1/3にまで減少しましたが</u>、依然として多くの引取り依頼があり、その数の削減が課題です。引き取りした猫のうち約7割弱が所有者の判明しない猫でした。</p> <p><u>また、飼い主からの引取りにおいては、飼い猫の繁殖制限措置を怠った結果、管理能力を超えるまで数を増やしてしまう「多頭飼育崩壊」による引取り依頼が近年増えており、飼い主に対し、飼い猫への不妊去勢手術の実施等、繁殖制限措置の徹底についての指導が重要になります。</u></p> <p><u>このため、飼い主に対する猫の不妊去勢手術等による繁殖制限措置、屋内飼養、終生飼養及び所有明示措置の徹底を普及啓発することはもとより、無責任な餌やり行為が望ましくないことの普及啓発や地域猫活動の促進などにより、所有者の判明しない猫の引取り数を減らす取り組みが重要です。</u></p> <p>●犬、猫の処分（返還・譲渡・殺処分）について</p> <p>・犬の処分について</p> <p>令和3年度に動物愛護センター等及び中核市保健所に収容された犬のうち、約2/3の248頭を飼い主の元に返還しました。また、所有者が発見できなかったり、所有者から引き取った犬については、約6割にあたる178頭を新しい飼い主に譲渡しました。</p> <p><u>一方、全体の約2割に当たる122頭が殺処分となりましたが、それらのほとんどは健康状態や攻撃性を理由とするものでした。</u></p>	<p>② 猫の引取りについて</p> <p>令和元年度の猫の引取り数は2,707匹で、依然として多くの引取り依頼があり、その数の削減が課題です。引き取りした猫のうち約8割が所有者の判明しない猫であり、<u>要因の一つとして、所有者の判明しない猫に対する後先を考えない無責任な餌やり行為が考えられます。</u></p> <p><u>また、飼い主からの引取りにおいては、飼い猫の繁殖制限措置を怠った結果、管理能力を超えるまで数を増やしてしまう「多頭飼育崩壊」による引取り依頼が近年増えており、飼い主に対し、飼い猫への不妊去勢手術の実施等、繁殖制限措置の徹底についての指導が重要になります。</u></p> <p>__犬、猫の処分について</p> <p>① 犬の処分について</p> <p>令和元年度に動物愛護センター等及び中核市保健所に収容された犬のうち、約半数の317頭を飼い主の元に返還しました。</p> <p>また、所有者が発見できなかったり、所有者から引き取った犬については、約3割に当たる230頭を新しい飼い主に譲渡しました。</p> <p><u>その結果、全体の約2割に当たる125頭を殺処分しましたが、それらのほとんどは健康状態や攻撃性を理由とするものでした。</u></p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>今後も引き続き、終生飼養及び所有明示の徹底等の適正飼養の普及啓発に取り組み、返還及び譲渡を推進する必要があります。</p> <p>・猫の処分について</p> <p>令和3年度に動物愛護センター等及び中核市保健所に収容された猫のうち、約7割弱にあたる986匹は所有者が判明しないとして持ち込まれたものですが、飼い主に返還したのは5匹のみでした。</p> <p>また、新しい飼い主に譲渡したのは385匹で、全体の3割弱に留まりました。</p> <p>その結果、引取り数全体の約7割を占める1,035匹を殺処分しましたが、そのうち7割が子猫でした。<u>殺処分数の削減には、収容した猫の所有者への返還や譲渡に適すると判断した猫の新しい飼い主への譲渡をさらに進める必要があります。</u></p> <p>【施策等の方向】</p> <p>県民の健康と安全の確保を図るため、飼養動物による危害や動物由来感染症の発生防止及び動物の愛護と福祉の向上を目的とした啓発事業を積極的に実施します。</p> <p>そのため、動物愛護センターを動物の愛護と適正飼養に関する施策を推進する基幹的な拠点として、中核市、市町村、動物愛護ボランティア及び公益社団法人福島県獣医師会(以下、「獣医師会」という。)等と連携しつつ、学校、地域、家庭等において、動物愛護週間事業や適正飼養講習会の実施、各種普及啓発資料の作成、配布等により、動物</p>	<p>今後も引き続き、終生飼養及び所有明示の徹底等の適正飼養の普及啓発に取り組み、返還及び譲渡を推進する必要があります。</p> <p>② 猫の処分について</p> <p>令和元年度に動物愛護センター等及び中核市保健所に収容された猫のうち、約8割が所有者が判明しないとして持ち込まれたものですが、飼い主に返還したのは12匹のみでした。</p> <p>また、新しい飼い主に譲渡したのは508匹で、全体の2割弱に留まりました。</p> <p>その結果、引取り数全体の約8割を占める2,141匹を殺処分しましたが、そのうち7割が子猫で、<u>所有者が判明しない猫として引き取ったものであることから、猫の殺処分数を削減するためには、飼い主に対する猫の終生飼養や繁殖制限措置及び屋内飼養の徹底を普及啓発することはもとより、無責任な餌やり行為が望ましくないことを普及啓発するなど、所有者の判明しない猫の引取り数を減らす取り組みが重要です。</u></p> <p>【施策等の方向】</p> <p>県民の健康と安全の確保を図るため、飼養動物による危害や動物由来感染症の発生防止及び動物の愛護と福祉の向上を目的とした啓発事業を積極的に実施します。</p> <p>そのため、動物愛護センターを動物の愛護と適正飼養に関する施策を推進する基幹的な拠点として、中核市、市町村、動物愛護ボランティア及び公益社団法人福島県獣医師会(以下、「獣医師会」という。)等と連携しつつ、学校、地域、家庭等において、動物愛護週間事業や適正飼養講習会の実施、各種普及啓発資料の作成、配布等により、動物</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>の愛護及び適正飼養に関する教育活動、広報活動に積極的に取り組みます。</p> <p>(2) 動物取扱業者の意識向上</p> <p>【現状と課題】</p> <p><u>動物取扱業者については、依然として</u>不衛生な環境下で動物を飼養するなどの不適正飼養の実態があることから、令和元年の動物愛護管理法の改正において、動物取扱業者に対する規制が強化されました。</p> <p>新たな制度の着実な運用を図るとともに、動物取扱業者、動物取扱責任者及び従事者に対して、動物の生理、生態、習性等及び動物愛護に関する知識や情報を周知していく必要があります。</p> <p>【施策等の方向】</p> <p>動物取扱業者に対し、<u>第一種動物取扱業者及び第二種動物取扱業者が取り扱う動物の管理の方法等の基準を定める省令（令和3年環境省令第7号）に基づき</u>、動物の適正な管理が行われるよう監視、指導を行い、動物取扱業者の意識向上を図ります。</p> <p>(3) 連携と協働の推進</p> <p>【現状と課題】</p> <p>動物の愛護と管理をめぐる課題に、地域の実情も踏まえて効果的に取り組むためには、中核市及びそれ以外の市町村を含む行政間の協力はもとより、行政内における部局間の連携や、獣医師会及び動物愛護ボランティアの協力が重要です。</p> <p>これまで、動物の愛護及び適正飼養の普及啓発については、行政が主体となって各種広報媒体を活用し実施して<u>います</u>。また、「飼い犬のしつけ方教室」や「猫の飼い方講習会」<u>を通じて</u>、適正飼養に関する</p>	<p>の愛護及び適正飼養に関する教育活動、広報活動に積極的に取り組みます。</p> <p>(2) 動物取扱業者の意識向上</p> <p>【現状と課題】</p> <p>不衛生な環境下で動物を飼養するなど、<u>全国的に、依然として動物取扱業者による</u>不適正飼養の実態があることから、令和元年の動物愛護管理法の改正において、動物取扱業者に対する規制が強化されました。</p> <p>新たな制度の着実な運用を図るとともに、動物取扱業者、動物取扱責任者及び従事者に対して、動物の生理、生態、習性等及び動物愛護に関する知識や情報を周知していく必要があります。</p> <p>【施策等の方向】</p> <p>動物取扱業者に対し、動物の適正な管理が行われるよう監視、指導を行い、動物取扱業者の意識向上を図ります。</p> <p>(3) 連携と協働の推進</p> <p>【現状と課題】</p> <p>動物の愛護と管理をめぐる課題に、地域の実情も踏まえて効果的に取り組むためには、中核市及びそれ以外の市町村を含む行政間の協力はもとより、行政内における部局間の連携や、獣医師会及び動物愛護ボランティアの協力が重要です。</p> <p>これまで、動物の愛護及び適正飼養の普及啓発については、行政が主体となって各種広報媒体を活用し実施して<u>おり</u>、また、「飼い犬等のしつけ方教室」や「猫の飼い方講習会」<u>など</u>、適正飼養に関する具体</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>る具体的な知識の普及にも努めています。今後さらに家庭や地域において広く普及させるためには、それぞれの主体がお互いの活動を理解し、協力していくことを促す取り組みが必要となります。</p> <p>【施策等の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物愛護ボランティアとの連携 地域における動物の愛護と適正飼養を普及啓発するボランティアを育成・支援し、連携協働した施策を進めます。 動物愛護推進員の委嘱 県は、動物の愛護や適正飼養の普及啓発等を行うなど、地域における動物愛護の推進に熱意と識見を有する方を動物愛護推進員に委嘱し、連携協働した施策を進めます。 動物愛護推進協議会の設置 県は、「福島県動物愛護推進懇談会」に替わる組織として、動物愛護推進員の委嘱の推進や活動の支援を行うとともに、本計画の進捗状況の点検等、動物愛護管理行政の推進に関し必要な協議を行う「福島県動物愛護推進協議会」の設置を進めます。 獣医師会等関係団体との連携協働 動物愛護管理に関わる事業において、狂犬病などの動物由来感染症対策や不妊去勢手術などの臨床獣医療等の専門性を有する内容を含む施策を展開するにあたっては、獣医師会等の専門家と連携協働しながら推進します。 市町村、関係都道府県との連携 	<p>的な知識の普及について実施してきましたが、さらに家庭や地域において広く普及するためには、それぞれがお互いの活動を理解し、協力していくことが必要となります。</p> <p>【施策等の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物愛護ボランティアとの連携 地域における動物の愛護と適正飼養を普及啓発するボランティアを育成するとともに、ボランティアが行うしつけ方教室などの自主活動を支援し、連携協働した事業を実施することにより、人と動物の共生の推進を図ります。 獣医師会等関係団体との連携協働 動物愛護管理に関わる事業において、狂犬病などの動物由来感染症対策や不妊去勢手術などの臨床獣医療等の専門性を有する内容を含む施策を展開するにあたっては、獣医師会等の専門家と連携協働しながら推進します。 市町村、関係都道府県との連携 	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>動物愛護の普及や犬の登録及び狂犬病予防注射の実施を推進するため、市町村と連携して積極的に情報提供と啓発活動を行います。</p> <p>また、都道府県の区域を越えて発生している広域事例については、必要に応じ、関係都道府県と円滑に連絡調整を図ります。</p> <p><u>・福祉関係機関等との連携</u> <u>「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」(令和3年3月、環境省発行)を参考に、福祉関係機関等との連携を図り、多頭飼育者への対応を行います。</u></p> <p><u>・地域猫活動に取り組む住民との連携</u> <u>他自治体における取り組み事例を参考に、本県においても地域猫活動に取り組む住民・団体への支援を行います。</u></p> <p><u>・教育機関との連携</u> <u>動物愛護に関する教育や学校飼育動物の適正な取り扱いの推進により、児童等に命の大切さや動物愛護精神の醸成を図るため、小学校等の教育機関との連携を進める必要があります。</u></p> <p><u>・警察との連携</u> <u>動物のみだりな殺傷、虐待及び遺棄が犯罪であることを住民に周知するとともに、犯罪の発生防止や犯罪事案への厳正な対処について、警察との連携を図ります。また、遺失物法に基づく拾得物として提出された動物についても、速やかに飼い主に返還されるよう連携を図る必要があります。</u></p> <p>(4) 災害対策 【現状と課題】</p>	<p>動物愛護の普及や犬の登録及び狂犬病予防注射の実施を推進するため、市町村と連携して積極的に情報提供と啓発活動を行います。</p> <p>また、都道府県の区域を越えて発生している広域事例については、必要に応じ、関係都道府県と円滑に連絡調整を図ります。</p> <p>(4) 災害対策 【現状と課題】</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>東日本大震災を契機に、災害時における飼い主とペットとの同行避難（ペット連れ避難）の考え方は普及しつつあります。<u>一方、令和元年度台風第19号等による災害の際には、ペットを飼養していることを理由に避難をためらった飼い主が_____命を危険にさらした事例や、避難所でペット連れ避難者が受入を断られた事例が明らかになっており、住民の避難の在り方（避難行動）や避難所の受入体制についてさらに啓発を進める必要があります。</u></p> <p>【施策等の方向】</p> <p>災害対策とは、飼い主<u>については、自身の安全を確保し</u>、災害を乗り越えてペットを適切に飼養し続けることです。</p> <p>また、自治体においては、飼い主による災害時の適正飼養を支援すると同時に、災害という非常時にあっても、ペットをめぐるトラブルを最小化させ、動物に対して多様な価値観を有する人々が、共に災害を乗り越えられるように支援することです。</p> <p>このため、<u>「人とペットの災害対策ガイドライン」（平成30年3月環境省発行）を基本として、飼い主に対しては、「災害、あなたとペットは大丈夫？人とペットの災害対策ガイドライン<一般飼い主編>」（平成30年9月環境省発行）を参考に</u>平時からの備え等について啓発するとともに、市町村に対しては、<u>「人とペットの災害対策ガイドライン 災害への備えチェックリスト」（令和3年3月環境省発行）を参考に</u>ペット連れ避難者を受け入れる避難所の体制整備について、必要な<u>指導</u>助言を行います。</p> <p>さらに災害時には、備蓄する物品の提供によりペットを飼う被災者を支援するとともに、ペット連れ避難者を受け入れた避難所の運営に関し、必要な助言を<u>指導</u>を行います。</p>	<p>東日本大震災を契機に、災害時における飼い主とペットとの同行避難（ペット連れ避難）の考え方は普及しつつあります<u>が</u>、令和元年度台風第19号等による災害の際には、ペットを飼養していることを理由に避難をためらった飼い主が<u>自宅に留まり</u>、命を危険にさらした事例やペット連れ避難者の受入を<u>断った避難所の存在が明らかになり</u>、住民の避難の在り方（避難行動）や避難所の受入体制の<u>不備が問題となりました。</u></p> <p>【施策等の方向】</p> <p>災害対策とは、飼い主が<u>自らの責任の下</u>、災害を乗り越えてペットを適切に飼養し続けることです。</p> <p>また、自治体においては、飼い主による災害時の適正飼養を支援すると同時に、災害という非常時にあっても、ペットをめぐるトラブルを最小化させ、動物に対して多様な価値観を有する人々が、共に災害を乗り越えられるように支援することでもあります。</p> <p>このため、飼い主に対し、平時からの備えについて啓発するとともに、市町村に対し、ペット連れ避難者を受け入れる避難所の体制整備について、必要な助言を行います。</p> <p>さらに災害時には、備蓄する物品の提供によりペットを飼う被災者を支援するとともに、ペット連れ避難者を受け入れた避難所の運営に関し、必要な助言や指導を行います。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>これまでの、本県の動物愛護管理等に関わる業務実績については、別表1（19、20ページ）を参照してください。</p> <p><u>6 具体的施策の展開</u></p> <p>（1）動物愛護センター等の活用</p> <p><u>本県は、地理的・文化的な特徴から3つの地域に分けられ、県が管理する施設として、中通り地域には福島県動物愛護センター及び犬・猫保護管理所が、会津地域には福島県動物愛護センター会津支所及び会津地区犬・猫保護管理所が、相双地域には福島県動物愛護センター相双支所及び相双地区犬・猫保護管理所があります。</u></p> <p>令和元年の動物愛護管理法の改正により、都道府県等が設置する施設が動物愛護管理センターとしての機能を果たすようにすることや行うべき業務が明確化されました。</p> <p>県は、動物愛護センターを動物の愛護及び適正飼養に関する施策を推進する基幹的な拠点として、中核市、市町村、動物愛護ボランティア及び獣医師会等と連携しながら、学校、地域、家庭等における教育活動、広報活動、ボランティアの育成・支援、譲渡事業及び負傷動物の治療等を総合的に推進し、人と動物の調和のとれた共生の実現を図ります。</p> <p>さらに災害時には、被災動物救護の拠点施設としても動物愛護センターを活用していきます。</p> <p><u>また、老朽化が進んでいる犬・猫保護管理所及び会津地区犬・猫保護管理所については、その在り方について検討を進めます。</u></p>	<p>これまでの、本県の動物愛護管理等に関わる業務実績については、別表1（19、20ページ）を参照してください。</p> <p><u>8 具体的施策の展開</u></p> <p>（1）動物愛護センター等の活用</p> <p>令和元年の動物愛護管理法の改正により、都道府県等が設置する施設が動物愛護管理センターとしての機能を果たすようにすることや行うべき業務が明確化されました。</p> <p>県は、動物愛護センターを動物の愛護及び適正飼養に関する施策を推進する基幹的な拠点として、中核市、市町村、動物愛護ボランティア及び獣医師会等と連携しながら、学校、地域、家庭等における教育活動、広報活動、ボランティアの育成・支援、譲渡事業及び負傷動物の治療等を総合的に推進し、人と動物の調和のとれた共生の実現を図ります。</p> <p>さらに災害時には、被災動物救護の拠点施設としても動物愛護センターを活用していきます。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>そのため、動物愛護関連事業の実施や動物愛護センター等の施設整備に、福島県動物愛護基金を活用します。</p> <p>※ 福島県動物愛護基金は、県の動物愛護の推進に役立てて欲しいと、全国から寄せられた動物愛護寄附金を積み立て、事業の財源として活用するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第241条第1項の規定に基づき、平成30年7月13日に設置しました。</p> <p>（2）動物愛護の普及</p> <p>・動物愛護週間事業の開催</p> <p>動物愛護センター等及び中核市保健所は、広く県民に、動物の愛護と適正飼養についての理解を深めるために、動物愛護週間に様々な事業をとおして、<u> </u>動物の愛護や適正飼養について啓発を図ります。</p> <p>・動物愛護推進ボランティアの育成と連携活動</p> <p>県は、地域活動の中核を担う「動物愛護推進ボランティア」を育成<u>します。</u></p> <p><u>また、県及び中核市は、</u>ボランティアと連携した<u>啓発</u>事業を実施し、地域に密着した活動を通して県民の意識改革を推進します。</p> <p>・広報活動の充実</p> <p>適正飼養や動物由来感染症の発生防止に関する啓発用ポスター、パンフレットの作成配布並びにホームページ等の更なる充実を図り、効果的な啓発に努めます。</p> <p>また、テレビ、ラジオ等の媒体を活用して、積極的に広報活動に取り組みます。</p> <p>（3）動物の適正飼養の推進</p> <p>・飼養方法の指導</p>	<p>そのため、動物愛護関連事業の実施や動物愛護センター等の施設整備に、福島県動物愛護基金を活用します。</p> <p>※ 福島県動物愛護基金は、県の動物愛護の推進に役立てて欲しいと、全国から寄せられた動物愛護寄附金を積み立て、事業の財源として活用するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第241条第1項の規定に基づき、平成30年7月13日に設置しました。</p> <p>（2）動物愛護の普及</p> <p>① 動物愛護週間事業の開催</p> <p>動物愛護センター等及び中核市保健所は、広く県民に、動物の愛護と適正飼養についての理解を深めるために、動物愛護週間に様々な事業をとおして、<u>参集者に対して</u>動物の愛護や適正飼養について啓発を図ります。</p> <p>② 動物愛護推進ボランティアの育成と連携活動</p> <p>県は、地域活動の中核を担う「動物愛護推進ボランティア」を育成<u>するとともに、当該</u>ボランティアと連携した<u>啓発</u>事業を実施し、地域に密着した活動を通して県民の意識改革を推進します。</p> <p>③ 広報活動の充実</p> <p>適正飼養や動物由来感染症の発生防止に関する啓発用ポスター、パンフレットの作成配布並びにホームページ等の更なる充実を図り、効果的な啓発に努めます。</p> <p>また、テレビ、ラジオ等の媒体を活用して、積極的に広報活動に取り組みます。</p> <p>（3）動物の適正飼養の推進</p> <p>① 飼養方法の指導</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>動物の飼い主及び管理者に対し、国が定めた「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」に基づき啓発を行います。</p> <p>また、生活環境被害の防止や犬又は猫の適正飼養の観点から、所有者の判明しない犬又は猫に対する後先を考えない無責任な餌やり行為が、望ましくない行為であることを普及啓発します。</p> <p>なお、動物の飼養方法等に関して住民等から苦情があった場合は、動物愛護センター等及び中核市保健所は情報収集に努めるとともに、苦情の発生原因について調査を行い、国が定めた「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」に基づき必要な指導を行います。</p> <p>・ 3 ない運動の推進</p> <p>県は、人と動物が共生する社会の実現を図るため、動物の飼養において特に重要な3項目を標語として定め、適正飼養の普及啓発を積極的に行います。</p> <p>・ 犬の3 ない運動</p> <p>放さない：犬の放し飼いは条例で禁止 <u>されています</u>。</p> <p>排泄等を目的に犬を放さない。</p> <p>引き運動等は必ず犬を制御できる者が実施。</p> <p>逃がさない：首輪やリード等のけい留器具を定期的に点検し、逸走を防止。</p> <p>増やさない：繁殖制限措置を実施し、適正な管理が可能な頭数を飼養。</p> <p>・ 猫の3 ない運動</p> <p>出さない：近所への迷惑防止や猫の安全を確保するため屋内で飼養。</p> <p>捨てない：最期まで責任を持って飼養（終生飼養）。</p>	<p>動物の飼い主及び管理者に対し、国が定めた「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」に基づき啓発を行います。</p> <p>また、生活環境被害の防止や犬又は猫の適正飼養の観点から、所有者の判明しない犬又は猫に対する後先を考えない無責任な餌やり行為が、望ましくない行為であることを普及啓発します。</p> <p>なお、動物の飼養方法等に関して住民等から苦情があった場合は、動物愛護センター等及び中核市保健所は情報収集に努めるとともに、苦情の発生原因について調査を行い、国が定めた「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」に基づき必要な指導を行います。</p> <p>② 3 ない運動の推進</p> <p>県は、人と動物が共生する社会の実現を図るため、動物の飼養において特に重要な3項目を標語として定め、適正飼養の普及啓発を積極的に行います。</p> <p>犬の3 ない運動</p> <p>放さない：犬の放し飼いは条例で禁止 <u>されています</u>。</p> <p>排泄等を目的に犬を放さない。</p> <p>引き運動等は必ず犬を制御できる者が実施。</p> <p>逃がさない：首輪やリード等のけい留器具を定期的に点検し、逸走を防止。</p> <p>増やさない：繁殖制限措置を実施し、適正な管理が可能な頭数を飼養。</p> <p>猫の3 ない運動</p> <p>出さない：近所への迷惑防止や猫の安全を確保するため屋内で飼養。</p> <p>捨てない：最期まで責任を持って飼養（終生飼養）。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>できない場合には、動物の健康・安全の保持の観点から行う譲渡や引取り等を<u>否定するものではありません。</u>こうした終生飼養の趣旨の適正な理解が進むよう、普及啓発に努めます。</p> <p>・所有明示（個体識別）措置の推進</p> <p>動物が自己の所有であることを明らかにするための措置を講じること、迷子になった動物や災害時に逸走した動物の所有者の発見に役立ちます。</p> <p>所有明示の方法には、所有者の氏名及び電話番号等の連絡先を記した<u>迷子札</u>等の装着や所有者の特定につながる番号が記録されたマイクロチップの装着等があります。</p> <p>特にマイクロチップについては、災害時においても脱落の<u>おそれ</u>が低く、より高い耐久性を有することから、動物の所有者に対し、その<u>有益性</u>についてより一層の啓発に努めます。また、<u>所有者情報の登録や更新の必要性についても啓発を行います。</u></p> <p>なお、飼い犬については、狂犬病予防法に基づき、鑑札及び注射済票を犬に装着するよう所有者等に併せて指導します。</p> <p>・狂犬病の予防及び犬による危害発生の防止</p> <p>飼い犬の登録及び狂犬病予防注射の実施を促進するとともに、放置犬等の捕獲抑留により、安全で安心できる生活環境の確保を図ります。</p> <p>・<u>飼い犬</u>のしつけ方教室の実施</p> <p>人と動物の調和ある社会の実現を目指すことを目的に、<u>犬</u>の飼養者を対象にしつけの方法や飼養管理に関する知識を深めてもらうための講習を行います。</p> <p>・<u>猫の飼い方講習会</u>の実施</p>	<p>できない場合には、動物の健康・安全の保持の観点から行う譲渡や引取り等が<u>否定されるものではなく、</u>こうした終生飼養の趣旨の適正な理解が進むよう、普及啓発に努めます。</p> <p>④ 所有明示（個体識別）措置の推進</p> <p>動物が自己の所有であることを明らかにするための措置を講じること、迷子になった動物や災害時に逸走した動物の所有者の発見に役立ちます。</p> <p>所有明示の方法には、所有者の氏名及び電話番号等の連絡先を記した<u>首輪、名札</u>等の装着や所有者の特定につながる番号が記録されたマイクロチップの装着等があります。</p> <p>特にマイクロチップについては、災害時においても脱落の<u>恐れ</u>が低く、より高い耐久性を有することから、動物の所有者に対し、その<u>必要性</u>について啓発を推進します。</p> <p>なお、飼い犬については、狂犬病予防法に基づき、鑑札及び注射済票を犬に装着するよう所有者等に併せて指導します。</p> <p>⑤ 狂犬病の予防及び犬による危害発生の防止</p> <p>飼い犬の登録及び狂犬病予防注射の実施を促進するとともに、放置犬等の捕獲抑留により、安全で安心できる生活環境の確保を図ります。</p> <p>⑥ <u>飼い犬等</u>のしつけ方教室の実施</p> <p>人と動物の調和ある社会の実現を目指すことを目的に、<u>犬等</u>の飼養者を対象にしつけの方法や飼養管理に関する知識を深めてもらうための講習を行います。</p> <p>⑦ <u>猫の飼い方講習会</u>の実施</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>猫の適正飼養の普及啓発を目的に、猫の生理、生態、習性等やそれに即した飼い方（飼い主の責任、法律とマナー、健康管理、繁殖制限措置、動物由来感染症、必要な飼養施設、屋内飼養）について講習を行います。</p> <p>（４）所有者の判明しない猫の引取り数の削減</p> <p>・所有者の判明しない猫の引取り拒否</p> <p>所有者の判明しない犬又は猫の引取りについては、これまで都道府県等に義務が課せられていましたが、令和元年の動物愛護管理法の改正において、その引取りを拒否できる場合が規定されました。</p> <p>そのため、安易な引取りは殺処分数の増加につながる可能性があり、動物愛護の観点から望ましくなく、また、収容される猫の約 7割弱（令和3年度） が所有者の判明しない猫の引取りである現状から、引取り数を減らし、殺処分数を削減するため、その引取りを求められた猫により周辺的生活環境が損なわれておらず、以下に該当する場合は、引取りを拒否できることとしました。</p> <p>なお、引取りの可否については、動物愛護センター等及び中核市保健所が拾得者等から猫を保護した状況等を聞き取りした上で判断します。</p> <p>① 自力で餌を摂取し生存できる場合 ② 親猫が飼育している場合 ③ 駆除目的で捕獲された場合 ④ 所有者がいると推測される場合</p> <p>なお、引取りの可否については、動物愛護センター等及び中核市保健所が拾得者等から猫を保護した状況等を聞き取りした上で判断します。</p>	<p>猫の適正飼養の普及啓発を目的に、猫の生理、生態、習性等やそれに即した飼い方（飼い主の責任、法律とマナー、健康管理、繁殖制限措置、動物由来感染症、必要な飼養施設、屋内飼養）について講習を行います。</p> <p>（４）所有者の判明しない猫の引取り数の削減</p> <p><u>所有者の判明しない犬又は猫の引取りについては、これまで都道府県等に義務が課せられていましたが、令和元年の動物愛護管理法の改正において、その引取りを拒否できる場合が規定されました。</u></p> <p>そのため、安易な引取りは殺処分数の増加につながる可能性があり、動物愛護の観点から望ましくなく、また、収容される猫の約 8割 が所有者の判明しない猫の引取りである現状から、引取り数を減らし、殺処分数を削減するため、その引取りを求められた猫により周辺的生活環境が損なわれておらず、以下に該当する場合は、引取りを拒否できることとしました。</p> <p>① 自力で餌を摂取し生存できる場合 ② 親猫が飼育している場合 ③ 駆除目的で捕獲された場合 ④ 所有者がいると推測される場合</p> <p>なお、引取りの可否については、動物愛護センター等及び中核市保健所が拾得者等から猫を保護した状況等を聞き取りした上で判断します。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>・地域猫活動の支援</u> <u>住民が主体となって地域の猫を管理する地域猫活動について、支援を行います。</u></p> <p>(5) 返還・譲渡の推進 動物愛護センター等及び中核市保健所に収容された犬及び猫について、飼い主への返還や、新しい飼い主への譲渡を推進します。</p> <p><u>・収容動物の返還</u> 動物愛護センター等及び中核市保健所で捕獲した犬、所有者不明として引取った犬及び猫について、ホームページ等に情報を掲載し、飼い主への返還に努めます。</p> <p><u>・収容動物の譲渡</u> 動物愛護センター等及び中核市保健所で捕獲した犬、飼い主__から引取った犬及び猫、<u>所有者不明として引取った犬及び猫については、性質</u>や健康状態を確認し、譲渡に適していると判断したものについて、ホームページ等に情報を掲載し、新しい飼い主への譲渡に努めます。また、譲り受けを希望する者に対しては、終生飼養、繁殖制限措置の実施及び所有明示の必要性について指導します。</p> <p><u>・子犬、子猫の飼い主探し支援</u> 子犬、子猫の譲り渡しを希望する飼い主と、子犬、子猫の譲り受けを希望する者との情報交換を支援します。 なお、譲り渡しを希望する飼い主に対しては、不妊去勢手術の実施等、繁殖制限措置の徹底について指導します。</p> <p>(6) 犬及び猫の殺処分数の削減 犬及び猫の殺処分等について、<u>環境省の区分に基づき、次の3つの類型</u>に分類します。</p>	<p>(5) 返還・譲渡の推進 動物愛護センター等及び中核市保健所に収容された犬及び猫について、飼い主への返還や、新しい飼い主への譲渡を推進します。</p> <p>① 収容動物の返還 動物愛護センター等及び中核市保健所で捕獲した犬、所有者不明として引取った犬及び猫について、ホームページ等に情報を掲載し、飼い主への返還に努めます。</p> <p>② 収容動物の譲渡 動物愛護センター等及び中核市保健所で捕獲した犬、飼い主<u>等</u>から引取った犬及び猫については、<u>性格</u>や健康状態を確認し、譲渡に適していると判断したものについて、ホームページ等に情報を掲載し、新しい飼い主への譲渡に努めます。また、譲り受けを希望する者に対しては、終生飼養、繁殖制限措置の実施及び所有明示の必要性について指導します。</p> <p>③ 子犬、子猫の飼い主探し支援 子犬、子猫の譲り渡しを希望する飼い主と、子犬、子猫の譲り受けを希望する者との情報交換を支援します。 なお、譲り渡しを希望する飼い主に対しては、不妊去勢手術の実施等、繁殖制限措置の徹底について指導します。</p> <p>(6) 犬及び猫の殺処分数の削減 犬及び猫の殺処分等について、<u>以下のとおり3つ</u>に分類します。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>① 健康状態や攻撃性などの理由から、譲渡不適と判断した動物の殺処分</p> <p>② 譲渡適と判断した動物であるが、施設の収容能力の制限等のやむを得ない理由による殺処分</p> <p>③ 収容後に死亡した動物</p> <p>動物愛護センター等及び中核市保健所は、収容された犬及び猫の所有者への返還に努めるとともに、②の<u>類型に分類される犬猫の殺処分</u>数を減らすため、新しい飼い主への譲渡について積極的に取り組みます。</p> <p>（7）人材育成の充実</p> <p>・動物愛護推進ボランティアの育成</p> <p>動物愛護センター等は、県が定めた「福島県動物愛護推進ボランティア育成事業実施要領」に基づき、動物愛護関係法令、動物由来感染症及びしつけ方の基本等についての講習によりボランティアを育成します。</p> <p>・児童への啓発の充実</p> <p>動物の愛護及び適正な飼養管理に関する啓発を児童期に実施するため、動物愛護センター等の獣医師を小学校に派遣し、身近な動物の飼い方の講話やふれあい体験を実施します。</p> <p>（8）連携と協働の推進</p> <p>・ボランティア等民間団体との連携協働と地域活動の支援</p> <p>行政機関（県、中核市及び市町村）と民間団体等が連携して、広く県民の間に動物愛護の気風を招来します。</p> <p>ア 地域における動物愛護活動の支援</p>	<p>① 健康状態や攻撃性などの理由から、譲渡不適と判断した動物の殺処分</p> <p>② 譲渡適と判断した動物であるが、施設の収容能力の制限等のやむを得ない理由による殺処分</p> <p>③ 収容後に死亡した動物</p> <p>動物愛護センター等及び中核市保健所は、収容された犬及び猫の所有者への返還に努めるとともに、②の数を減らすため、新しい飼い主への譲渡について積極的に取り組みます。</p> <p>（7）人材育成の充実</p> <p>① 動物愛護推進ボランティアの育成</p> <p>動物愛護センター等は、県が定めた「福島県動物愛護推進ボランティア育成事業実施要領」に基づき、動物愛護関係法令、動物由来感染症及びしつけ方の基本等についての講習によりボランティアを育成します。</p> <p>② 児童への啓発の充実</p> <p>動物の愛護及び適正な飼養管理に関する啓発を児童期に実施するため、動物愛護センター等の獣医師を小学校に派遣し、身近な動物の飼い方の講話やふれあい体験を実施します。</p> <p>（8）連携と協働の推進</p> <p>① ボランティア等民間団体との連携協働と地域活動の支援</p> <p>行政機関（県、中核市及び市町村）と民間団体等が連携して、広く県民の間に動物愛護の気風を招来します。</p> <p>ア 地域における動物愛護活動の支援</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>地域で自主活動を行っているボランティアの資質向上のための研修会・講習会を開催し、ボランティアが相互に知識・技術を提供し組織の強化を図るために設立された「福島県動物愛護ボランティア会」の活動を支援するとともに、地域と密着した活動を推進します。</p> <p>イ 動物ふれあい訪問活動の支援</p> <p>ボランティア等民間団体が行う県民の福祉の向上を目的とした動物ふれあい活動などを支援します。</p> <p>・ <u>獣医師会等関係団体との連携協働</u></p> <p>「<u>飼い犬</u>のしつけ方教室」、<u>「猫の飼い方教室」</u>、「小学校への獣医師派遣事業」及び「動物愛護週間事業」などの動物愛護管理推進事業については、獣医師会などの専門家と協働して、動物福祉の観点に配慮しながら事業を実施します。</p> <p>また、不妊去勢手術やマイクロチップ挿入等、獣医療の専門性が高い取組についても、連携しながら進めていきます。</p> <p>・ <u>市町村との連携</u></p> <p>動物の愛護及び適正な飼養管理の普及啓発を推進し、飼い犬の登録及び狂犬病予防注射の実施を促進するため、市町村と連携して積極的に啓発活動を行います。</p> <p><u>また、市町村のなかには、犬猫の不妊去勢手術費用の補助を行っている自治体があり、県はこうした市町村との連携を進めていきます。</u></p> <p>・ <u>福祉関係機関等との連携</u></p> <p><u>飼い主、動物、周辺環境に大きな影響を与える不適切な飼育に起因する問題の背景には、飼い主の経済的困窮や社会的孤立等が複雑に絡みあっています。飼い主の中には社会的な支援を必要とする人も多</u></p>	<p>地域で自主活動を行っているボランティアの資質向上のための研修会・講習会を開催し、ボランティアが相互に知識・技術を提供し組織の強化を図るために設立された「福島県動物愛護ボランティア会」の活動を支援するとともに、地域と密着した活動を推進します。</p> <p>イ 動物ふれあい訪問活動の支援</p> <p>ボランティア等民間団体が行う県民の福祉の向上を目的とした動物ふれあい活動などを支援します。</p> <p>② <u>獣医師会等関係団体との連携協働</u></p> <p>「<u>飼い犬等</u>のしつけ方教室」、「小学校への獣医師派遣事業」及び動物愛護週間事業などの動物愛護管理推進事業については、獣医師会などの専門家と協働して、動物福祉の観点に配慮しながら事業を実施します。</p> <p>また、不妊去勢手術やマイクロチップ挿入等、獣医療の専門性が高い取組についても、連携しながら進めていきます。</p> <p>③ <u>市町村との連携</u></p> <p>動物の愛護及び適正な飼養管理の普及啓発を推進し、飼い犬の登録及び狂犬病予防注射の実施を促進するため、市町村と連携して積極的に啓発活動を行います。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>く、「人」と「動物」に係る別々の問題として対応することでは解決が難しいことから、福祉関係機関等との連携を進めます。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域猫活動に取り組む住民との連携</u> 住民が主体となって実施される地域猫活動が円滑に進むよう、活動主体に対し必要な助言及び指導等を行うとともに、地域住民に対する活動目的の啓発などについて支援を行います。 ・ <u>教育機関との連携</u> 「小学校への獣医師派遣事業」の実施により、犬や猫といった身近な動物や学校飼育動物との接し方や動物との関わり方について、児童や教職員の理解を深めます。 ・ <u>警察との連携</u> 動物愛護管理法等の違反疑い事案において、積極的に警察への連絡・通報による情報提供や告発などを行い捜査につなげるとともに、警察の捜査に協力をします。 また、行方不明動物に関する情報共有により、所有者への速やかな返還を図ります。 <p>(9) 動物取扱業者等に対する立入指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>監視指導の実施</u> <p>ア 動物取扱業</p> <p>第一種動物取扱業者に対して、<u>動物愛護管理法に基づき、帳簿の整備、マイクロチップの装着及び所有者情報の登録の徹底</u>を図るとともに、環境省令で定める動物の管理方法等に関する基準（<u>飼養施設のケージ等の数値基準等</u>）を遵守し、施設設備及び動物の管理が適正に行われるよう監視指導します。</p>	<p>(9) 動物取扱業者等に対する立入指導</p> <p>① <u>監視指導の実施</u></p> <p>ア 動物取扱業</p> <p>第一種動物取扱業者に対して、<u>動物の愛護及び管理に関する法律に基づき、標識の掲示、現物確認、販売事業所以外での対面説明の禁止及び幼齢動物の販売の制限</u>の徹底を図るとともに、環境省令で定める動物の管理方法等に関する基準を遵守し、施設設備及び動物の管理が適正に行われるよう監視指導します。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>特に、犬猫等販売業者については、事業者が定めた「犬猫等健康安全計画」が遵守されるよう指導します。</p> <p>また、第二種動物取扱業者についても、<u>帳簿の整備の徹底を図るとともに、環境省令で定める動物の管理方法等に関する基準（飼養施設のケージ等の数値基準等）</u>を遵守し、施設設備及び動物の管理が適正に行われるよう指導します。</p> <p>イ 動物の展示を行う施設</p> <p>展示動物等の健康及び安全の保持並びに周辺的生活環境の保全を図るため、国が定めた「展示動物の飼養及び保管に関する基準」を遵守するよう監視指導を実施します。</p> <p>ウ 特定動物飼養施設</p> <p>令和元年の動物愛護管理法の改正により、人の生命、身体及び財産に対する安全の確保及び動物愛護の観点から、特定動物（<u> </u>危険な動物）の飼養又は保管は、原則、禁止となりました。</p> <p>しかしながら、法令が定める目的等であって知事の許可を得た者は、特定動物の飼養又は保管が可能であることから、国が定める「特定動物の飼養又は保管の細目」に基づく適正な管理が行われているか、飼養施設の立入調査により確認するとともに、特定動物飼養者を指導します。</p> <p><u>また、令和5年度、県内において、特定動物による飼育員の死亡事故が発生したことから、従事者の安全管理についても立入調査時等の際に確認し、事故発生防止対策について特定動物飼養者を助言指導します。</u></p> <p>・動物取扱責任者研修の実施</p>	<p>特に、犬猫等販売業者については、事業者が定めた「犬猫等健康安全計画」が遵守されるよう指導します。</p> <p>また、第二種動物取扱業者についても、環境省令で定める動物の管理方法等に関する基準を遵守し、施設設備及び動物の管理が適正に行われるよう指導します。</p> <p>イ 動物の展示を行う施設</p> <p>展示動物等の健康及び安全の保持並びに周辺的生活環境の保全を図るため、国が定めた「展示動物の飼養及び保管に関する基準」を遵守するよう監視指導を実施します。</p> <p>ウ 特定動物飼養施設</p> <p>令和元年の動物愛護管理法の改正により、人の生命、身体及び財産に対する安全の確保及び動物愛護の観点から、特定動物（<u>いわゆる</u>危険な動物）の飼養又は保管は、原則、禁止となりました。</p> <p>しかしながら、法令が定める目的等であって知事の許可を得た者は、特定動物の飼養又は保管が可能であることから、国が定める「特定動物の飼養又は保管の細目」に基づく適正な管理が行われているか、飼養施設の立入調査により確認するとともに、特定動物飼養者を指導します。</p> <p>② 動物取扱責任者研修の実施</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>動物を取り扱う専門家としての自覚の醸成と社会的責任を果たせるように、動物愛護センター等及び中核市保健所は、各事業所^並の動物取扱責任者を対象とした研修会を開催し、動物取扱業者全体の資質向上を図ります。</p> <p>(10) 実験動物の適正な取扱いの推進</p> <p>実験動物の飼養等については、国が定めた「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下、「実験動物の飼養保管等基準」という。）に基づき、その飼養及び科学上の利用に当たっては、動物が命あるものであることにかんがみ、科学上の利用の目的を達することができる範囲において、実験動物の取扱いの基本的考え方である「3Rの原則」（代替法の活用：Replacement、使用数の削減：Reduction、苦痛の軽減：Refinement）を踏まえた適切な措置を講じることを周知していきます。</p> <p>また、管理者が定期的に、「実験動物の飼養保管等基準」及び当該基準に即した指針の遵守状況について点検を行い、その結果について適切な方法により公表すること及び当該点検結果について、可能な限り外部の機関等による検証を行うよう併せて周知していきます。</p> <p>(11) 産業動物の適正な取扱いの推進</p> <p>産業動物の適正な取扱いについては、国が定めた「産業動物の飼養及び保管に関する基準」に基づき、産業動物の種類及び習性等に応じた動物の愛護及び管理の必要性について普及啓発を行います。</p> <p>(12) 災害時の救護対策の推進</p> <p>災害時において、被災動物の保護収容や餌の確保、飼い主との同行避難等について、県が定めた「災害発生時の動物（ペット）の救護対策マニュアル」に基づき対応します。</p>	<p>動物を取り扱う専門家としての自覚の醸成と社会的責任を果たせるように、動物愛護センター等及び中核市保健所は、各事業所等の動物取扱責任者を対象とした研修会を開催し、動物取扱業者全体の資質向上を図ります。</p> <p>(10) 実験動物の適正な取扱いの推進</p> <p>実験動物の飼養等については、国が定めた「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下、「実験動物の飼養保管等基準」という。）に基づき、その飼養及び科学上の利用に当たっては、動物が命あるものであることにかんがみ、科学上の利用の目的を達することができる範囲において、実験動物の取扱いの基本的考え方である「3Rの原則」（代替法の活用：Replacement、使用数の削減：Reduction、苦痛の軽減：Refinement）を踏まえた適切な措置を講じることを周知していきます。</p> <p>また、管理者が定期的に、「実験動物の飼養保管等基準」及び当該基準に即した指針の遵守状況について点検を行い、その結果について適切な方法により公表すること及び当該点検結果について、可能な限り外部の機関等による検証を行うよう併せて周知していきます。</p> <p>(11) 産業動物の適正な取扱いの推進</p> <p>産業動物の適正な取扱いについては、国が定めた「産業動物の飼養及び保管に関する基準」に基づき、産業動物の種類及び習性等に応じた動物の愛護及び管理の必要性について普及啓発を行います。</p> <p>(12) 災害時の救護対策の推進</p> <p>災害時において、被災動物の保護収容や餌の確保、飼い主との同行避難等について、県が定めた「災害発生時の動物（ペット）の救護対策マニュアル」に基づき対応します。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>また、県は、災害時における被災動物救護の拠点施設である動物愛護センターを中心として、市町村等行政機関との連携並びに獣医師会及びボランティア団体との連携協働、他都道府県との相互援助について、体制整備を図ります。</p> <p>なお、長期間の災害対策を講ずる必要がある場合は、県、中核市、獣医師会及び福島県動物愛護ボランティア会からなる「福島県動物救護本部」を設置し、組織的に継続して被災動物の保護収容及び飼養管理並びに健康管理の支援など必要な動物救護活動を行います。</p> <p>以上のことから、ペットを飼う被災者を支援するため、災害時には愛玩動物の一時預かりや飼養管理に必要な物品の提供体制を整えるとともに、ペット連れ避難者への支援の必要性について避難所を設置する市町村の理解を促し、災害時に協力を要請する関係団体等との連携を推進します。</p> <p>また、ペットを飼う住民に対して、災害対策に関する知識を普及啓発します。</p> <p>※ 在宅避難とは、地震などの災害の際、まずはより安全な場所に避難するが、その後、自宅の安全性が確認され継続して居住できると判断した場合に、自宅で避難生活を行うことです。</p> <p>同行避難とは、災害発生時に、飼い主が飼養しているペットと共に移動を伴う避難行動を取ることを指し、避難所等において飼い主がペットを同室で飼養管理することを意味するものではありません。</p> <p>なお、同伴避難とは、被災者が避難所でペットを飼養管理すること（状態）を意味し、ペットと共に安全な場所まで避難する行為（避難行動）である同行避難とは異なります。</p>	<p>また、県は、災害時における被災動物救護の拠点施設である動物愛護センターを中心として、市町村等行政機関との連携並びに獣医師会及びボランティア団体との連携協働、他都道府県との相互援助について、体制整備を図ります。</p> <p>なお、長期間の災害対策を講ずる必要がある場合は、県、中核市、獣医師会及び福島県動物愛護ボランティア会からなる「福島県動物救護本部」を設置し、組織的に継続して被災動物の保護収容及び飼養管理並びに健康管理の支援など必要な動物救護活動を行います。</p> <p>以上のことから、ペットを飼う被災者を支援するため、災害時には愛玩動物の一時預かりや飼養管理に必要な物品の提供体制を整えるとともに、ペット連れ避難者への支援の必要性について避難所を設置する市町村の理解を促し、災害時に協力を要請する関係団体等との連携を推進します。</p> <p>また、ペットを飼う住民に対して、災害対策に関する知識を普及啓発します。</p> <p>※ 在宅避難とは、地震などの災害の際、まずはより安全な場所に避難するが、その後、自宅の安全性が確認され継続して居住できると判断した場合に、自宅で避難生活を行うことです。</p> <p>同行避難とは、災害発生時に、飼い主が飼養しているペットと共に移動を伴う避難行動を取ることを指し、避難所等において飼い主がペットを同室で飼養管理することを意味するものではありません。</p> <p>なお、同伴避難とは、被災者が避難所でペットを飼養管理すること（状態）を意味し、ペットと共に安全な場所まで避難する行為（避難行動）である同行避難とは異なります。</p>	

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>※ 県・郡山市・いわき市は平成29年5月に、福島市は平成31年1月に、県獣医師会と「災害時における被災動物対策に関する協定書」を、加えて、福島市は令和4年3月に、県獣医師会と「災害時における指定避難所の運営協力に関する協定」を締結しています。</u></p> <p>7 目標の設定</p> <p>各施策の取組による成果目標として代表指標を設定します。（別表2（<u>21</u>ページ）のとおり。）</p> <p>この代表指標については、国が定めた基本指針に則して、<u>令和3</u>年度の実績を基準値として、数値目標を定め、その評価をA～Cの3段階で判定し、事業達成度の評価を行います。</p> <p>評価の時期は、本計画の見直し時期とあわせ5年毎とすることから、目標値は、<u>令和10</u>年度（中間目標値）と<u>令和15</u>年度（最終目標値）に設定します。</p> <p>評価 判定基準</p> <p>A 目標を達成している。</p> <p>B 目標を達成していないが、基準値を上回っている。</p> <p>C 基準値（<u>令和3</u>年度）を下回っている。</p> <p>別表1 動物愛護管理業務実績（表：<u>19</u>、<u>20</u>ページ）</p> <p>別表2 施策等の数値目標（表：<u>21</u>ページ、グラフ：<u>22</u>ページ）</p>	<p>9 目標の設定</p> <p>各施策の取組による成果目標として代表指標を設定します。（別表2（<u>21</u>ページ）のとおり。）</p> <p>この代表指標については、国が定めた基本指針に則して、<u>平成18</u>年度の実績を基準値として、数値目標を定め、その評価をA～Cの3段階で判定し、事業達成度の評価を行います。</p> <p>評価の時期は、本計画の見直し時期とあわせ5年毎とすることから、目標値は、<u>平成30</u>年度（中間目標値）と<u>令和5</u>年度（最終目標値）に設定します。</p> <p>評価 判定基準</p> <p>A 目標を達成している。</p> <p>B 目標を達成していないが、基準値を上回っている。</p> <p>C 基準値（<u>平成18</u>年度）を下回っている。</p> <p>別表1 動物愛護管理業務実績（表<u>2</u>ページ）</p> <p>別表2 施策等の数値目標（表<u>1</u>ページ、グラフ<u>1</u>ページ）</p>	<p>(別表1) 動物愛護管理業務実績 (別表2) 施策等の数値目標 (指標推移グラフ)</p>

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄
---	---	-----

別表1

動物愛護管理業務実績（平成18年度、平成25年度から令和4年度まで）

（福島市、郡山市、いわき市を含む）

年度	犬					引取り 頭数	処分 頭数	譲渡 頭数	飼い主 探し支援 件数	犬の登録頭数に対する割合					猫の登録頭数 [※]			動物を取り扱う登録 施設又は許可施設				
	登録 頭数	狂犬病 予防注射 実施率	注射 実施率	捕獲 頭数	返還 頭数					犬	猫	犬	猫	犬	猫	計	放し 飼いや 飼育 管理 不足	飼育 管理 不足	周辺 環境 の被害	計	動物取扱 業施設 （監視件数）	特定動物 飼養施設 （監視件数）
平成18	117,649	88,702	75%	2,229	405	944	4,031	2,589	4,014	179	17	16	2	2,744	142	295	340	3,521	401	249		
														(2.33%)	(0.12%)	(0.25%)	(0.29%)	(2.99%)	(203)	(249)		
25	111,151	82,801	74%	1,003	474	445	3,335	474	3,063	409	211	1	3	2,011	44	198	60	2,313	第一種 455 (273)	88 (166)		
														(1.81%)	(0.04%)	(0.18%)	(0.02%)	(2.08%)				
26	108,547	80,436	74%	953	452	418	2,925	482	2,592	418	299	20	2	1,851	57	159	85	1,952	第一種 485 (347)	85 (95)		
														(1.52%)	(0.05%)	(0.15%)	(0.08%)	(1.80%)				
27	106,027	79,812	75%	860	444	244	3,087	279	2,477	385	540	4	25	1,471	46	321	76	1,914	第一種 477 (299)	82 (101)		
														(1.39%)	(0.04%)	(0.30%)	(0.07%)	(1.81%)				
28	103,672	77,975	75%	714	418	244	3,054	231	2,488	303	559	23	26	1,054	27	142	40	1,263	第一種 503 (391)	80 (121)		
														(1.02%)	(0.02%)	(0.14%)	(0.04%)	(1.22%)				
29	100,628	75,734	75%	598	360	255	2,874	139	2,435	342	417	1	29	999	16	127	83	1,225	第一種 520 (245)	75 (78)		
														(0.99%)	(0.02%)	(0.13%)	(0.08%)	(1.22%)				
30	97,163	74,014	76%	569	358	181	3,003	119	2,467	281	538	0	26	964	24	158	77	1,223	第一種 519 (458)	68 (90)		
														(0.99%)	(0.02%)	(0.16%)	(0.08%)	(1.09%)				

別表1

動物愛護管理業務実績（平成18年度、平成25年度から令和4年度まで）

（福島市、郡山市、いわき市を含む）

年度	犬					引取り 頭数	処分 頭数	譲渡 頭数	飼い主 探し支援 件数	犬の登録頭数に対する割合					猫の登録頭数 [※]			動物を取り扱う登録 施設又は許可施設				
	登録 頭数	狂犬病 予防注射 実施率	注射 実施率	捕獲 頭数	返還 頭数					犬	猫	犬	猫	犬	猫	計	放し 飼いや 飼育 管理 不足	飼育 管理 不足	周辺 環境 の被害	計	動物取扱 業施設 （監視件数）	特定動物 飼養施設 （監視件数）
令和元	95,136	71,828	76%	524	317	149	2,707	125	2,141	230	508	1	6	836	21	104	10	1,031	第一種 576 (241)	70 (89)		
														(0.88%)	(0.02%)	(0.11%)	(0.07%)	(1.08%)				
2	93,224	64,768	70%	492	298	121	2,393	147	1,893	166	465	1	12	713	19	112	51	895	第一種 552 (347)	81 (77)		
														(0.76%)	(0.02%)	(0.12%)	(0.09%)	(0.96%)				
3	91,724	68,183	74%	382	248	162	1,438	122	1,035	178	385	0	7	688	15	87	78	878	第一種 740 (594)	64 (80)		
														(0.76%)	(0.02%)	(0.09%)	(0.09%)	(0.90%)				
4	89,861	66,551	74%	340	240	102	1,635	71	1,156	129	451	1	5	576	21	124	51	750	第一種 748 (587)	54 (78)		
														(0.64%)	(0.02%)	(0.14%)	(0.06%)	(0.84%)				

※ 猫の登録頭数について統計を
取り始めたのは平成29年度から

別表1

動物愛護管理業務実績

（福島市、郡山市、いわき市を含む）

年度	犬の 登録頭数	狂犬病 予防注射 実施率	注射 実施率	捕獲 頭数	返還 頭数	引取り頭数		処分頭数		譲渡頭数	飼い主探し 支援（件数）	猫の登録頭数に対する割合					動物を取り扱う登録 施設又は許可施設					
						犬	猫	犬	猫			犬	猫	犬	猫	計	放し 飼い等	飼育 管理 不足	周辺 環境 の被害	計	動物取扱 業施設 （監視件数）	特定動物 飼養施設 （監視件数）
平成18	117,649	88,702	75%	2,229	405	944	4,031	2,589	4,014	179	17	16	2	2,744	142	295	340	3,521	401	249		
														(2.33%)	(0.12%)	(0.25%)	(0.29%)	(2.99%)	(203)	(249)		
19	119,025	93,385	78%	2,049	360	829	3,717	2,292	3,650	226	67	29	3	2,587	130	248	207	3,172	397	81		
														(2.17%)	(0.11%)	(0.21%)	(0.17%)	(2.68%)	(318)	(143)		
20	119,006	91,552	77%	1,586	409	880	3,935	1,790	3,839	277	96	11	8	2,368	123	267	226	2,967	421	94		
														(1.96%)	(0.10%)	(0.22%)	(0.19%)	(2.5%)	(308)	(179)		
21	118,072	92,898	79%	1,342	382	860	3,518	1,499	3,328	321	190	31	0	2,166	89	251	167	2,673	449	99		
														(1.83%)	(0.08%)	(0.21%)	(0.14%)	(2.28%)	(337)	(187)		
22	116,780	92,485	79%	1,396	499	716	3,968	1,247	3,706	358	230	15	3	2,273	95	268	106	2,748	461	99		
														(1.95%)	(0.08%)	(0.23%)	(0.09%)	(2.30%)	(376)	(187)		
23	114,306	77,911	68%	1,295	519	630	3,095	767	2,703	488	331	28	6	2,020	86	221	91	2,398	444	88		
														(1.77%)	(0.06%)	(0.19%)	(0.08%)	(2.10%)	(220)	(169)		
24	112,903	83,620	74%	1,202	534	573	3,428	612	3,123	593	272	23	7	1,795	62	233	74	2,124	457	84		
														(1.59%)	(0.06%)	(0.21%)	(0.07%)	(1.88%)	(299)	(158)		

別表1

動物愛護管理業務実績

（福島市、郡山市、いわき市を含む）

年度	犬の 登録頭数	狂犬病 予防注射 実施率	注射 実施率	捕獲 頭数	返還 頭数	引取り頭数		処分頭数		譲渡頭数	飼い主探し 支援（件数）	猫の登録頭数に対する割合					動物を取り扱う登録 施設又は許可施設					
						犬	猫	犬	猫			犬	猫	犬	猫	計	放し 飼い等	飼育 管理 不足	周辺 環境 の被害	計	動物取扱 業施設 （監視件数）	特定動物 飼養施設 （監視件数）
25	111,151	82,801	74%	1,003	474	445	3,335	474	3,063	409	211	1	3	2,011	44	198	60	2,313	第一種 455 (273)	88 (166)		
														(1.81%)	(0.04%)	(0.18%)	(0.05%)	(2.08%)				
26	108,547	80,436	74%	953	452	418	2,925	482	2,592	418	299	20	2	1,851	57	159	85	1,952	第一種 485 (347)	85 (95)		
														(1.52%)	(0.05%)	(0.15%)	(0.08%)	(1.80%)				
27	106,027	79,812	75%	860	444	244	3,087	279	2,477	385	540	4	25	1,471	46	321	76	1,914	第一種 477 (299)	82 (101)		
														(1.39%)	(0.04%)	(0.30%)	(0.07%)	(1.81%)				
28	103,672	77,975	75%	714	418	244	3,054	231	2,488	303	559	23	26	1,054	27	142	40	1,263	第一種 503 (391)	80 (121)		
														(1.02%)	(0.03%)	(0.14%)	(0.04%)	(1.22%)				
29	100,628	75,734	75%	598	360	255	2,874	139	2,435	342	417	1	29	999	16	127	83	1,225	第一種 520 (245)	75 (78)		
														(0.99%)	(0.02%)	(0.13%)	(0.08%)	(1.22%)				
30	97,163	74,014	76%	569	358	181	3,003	119	2,467	281	538	0	26	964	24	158	77	1,223	第一種 519 (458)	68 (90)		
														(0.99%)	(0.02%)	(0.16%)	(0.08%)	(1.09%)				
令和元	95,136	71,828	76%	524	317	149	2,707	125	2,141	230	508	1	6	836	21	104	10	1,031	第一種 576 (241)	70 (89)		
														(0.88%)	(0.02%)	(0.11%)	(0.07%)	(1.08%)				

福島県動物愛護管理推進計画（改定案）新旧対照表

新	旧	備考欄																																																																																															
<p>別表2</p> <p>施策等の数値目標</p> <p>動物愛護管理に関する施策の成果目標は、計画期間である令和15年度の「最終目標」を設定する他に、実績に即した的確な計画の進行管理を行うため、令和10年度の「中間目標」も設定し、実効的な計画の見直しを図ります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【代表指標】</th> <th>基準値 (令和3年度実績)</th> <th>中間目標 令和10年度目標</th> <th>最終目標 令和15年度目標</th> <th>数値目標の設定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 犬の引取り数</td> <td>162頭</td> <td>120頭以下</td> <td>80頭以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>② 猫の引取り数</td> <td>1,438匹</td> <td>1,080匹以下</td> <td>720匹以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>③ 犬の捕獲頭数</td> <td>382頭</td> <td>290頭以下</td> <td>190頭以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>④ 犬の苦情件数</td> <td>878件</td> <td>660件以下</td> <td>440件以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑤ 猫の苦情件数</td> <td>1,035件</td> <td>780件以下</td> <td>520件以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑥ 犬の殺処分数</td> <td>122頭</td> <td>90頭以下</td> <td>60頭以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑦ 猫の殺処分数</td> <td>1,035匹</td> <td>780匹以下</td> <td>520匹以下</td> <td>基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑧ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>引き続き、違反が行われないよう、施策の進行管理を図ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>① 犬の引取り数</p> <p>② 猫の引取り数</p> <p>③ 犬の捕獲頭数</p> <p>④ 犬の苦情件数</p> <p>⑤ 猫の苦情件数 (統計開始H29)</p> <p>⑥ 犬の殺処分数</p> <p>⑦ 猫の殺処分数</p> <p>⑧ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)の違反件数</p> <p>(参考)犬及び猫の譲渡数</p>	【代表指標】	基準値 (令和3年度実績)	中間目標 令和10年度目標	最終目標 令和15年度目標	数値目標の設定	① 犬の引取り数	162頭	120頭以下	80頭以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	② 猫の引取り数	1,438匹	1,080匹以下	720匹以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	③ 犬の捕獲頭数	382頭	290頭以下	190頭以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	④ 犬の苦情件数	878件	660件以下	440件以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	⑤ 猫の苦情件数	1,035件	780件以下	520件以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	⑥ 犬の殺処分数	122頭	90頭以下	60頭以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	⑦ 猫の殺処分数	1,035匹	780匹以下	520匹以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。	⑧ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数	0件	0件	0件	引き続き、違反が行われないよう、施策の進行管理を図ります。	<p>別表2</p> <p>施策等の数値目標</p> <p>動物愛護管理に関する施策の成果目標は、計画期間である令和5年度の「最終目標」を設定する他に、実績に即した的確な計画の進行管理を行うため、平成30年度の「中間目標」も設定し、実効的な計画の見直しを図ります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【代表指標】</th> <th>基準値 (H18年度実績)</th> <th>中間目標 H30年度目標</th> <th>最終目標 R5年度目標</th> <th>数値目標の設定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 犬の引取り数</td> <td>944頭</td> <td>400頭以下</td> <td>200頭以下</td> <td>基準値(平成18年度実績)の80%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>② 猫の引取り数</td> <td>4,031匹</td> <td>2,000匹以下</td> <td>2,000匹以下</td> <td>基準値(平成18年度実績)の50%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>③ 狂犬病予防注射実施率</td> <td>75%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>我が国の隣国や多くの貿易相手国において、狂犬病が発生し、死亡者が多数発生していることから、万が一、国内に侵入した場合に備え、100%の実施率を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>④ 犬の捕獲頭数</td> <td>2,229頭</td> <td>850頭以下</td> <td>450頭以下</td> <td>基準値(平成18年度実績)の80%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑤ 犬の苦情件数</td> <td>3,521件</td> <td>1,500件以下</td> <td>950件以下</td> <td>基準値(平成18年度実績)の75%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑥ 犬の殺処分数</td> <td>2,589頭</td> <td>600頭以下</td> <td>120頭以下</td> <td>基準値(平成18年度実績)の95%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑦ 猫の殺処分数</td> <td>4,014匹</td> <td>2,000匹以下</td> <td>1,600匹以下</td> <td>基準値(平成18年度実績)の60%減を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑧ 動物愛護ボランティア登録者数</td> <td>262名</td> <td>400名</td> <td>500名</td> <td>基準値(平成18年度実績)の約2倍のボランティア育成を目標とします。</td> </tr> <tr> <td>⑨ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>引き続き、違反が行われないよう、施策の進行管理を図ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>① 犬の引取り数</p> <p>② 猫の引取り数</p> <p>③ 狂犬病予防注射実施率</p> <p>④ 犬の捕獲頭数</p> <p>⑤ 犬の苦情件数</p> <p>⑥ 犬の殺処分数</p> <p>⑦ 猫の殺処分数</p> <p>⑧ 動物愛護ボランティア登録者数</p> <p>⑨ 犬及び猫の譲渡数</p>	【代表指標】	基準値 (H18年度実績)	中間目標 H30年度目標	最終目標 R5年度目標	数値目標の設定	① 犬の引取り数	944頭	400頭以下	200頭以下	基準値(平成18年度実績)の80%減を目標とします。	② 猫の引取り数	4,031匹	2,000匹以下	2,000匹以下	基準値(平成18年度実績)の50%減を目標とします。	③ 狂犬病予防注射実施率	75%	100%	100%	我が国の隣国や多くの貿易相手国において、狂犬病が発生し、死亡者が多数発生していることから、万が一、国内に侵入した場合に備え、100%の実施率を目標とします。	④ 犬の捕獲頭数	2,229頭	850頭以下	450頭以下	基準値(平成18年度実績)の80%減を目標とします。	⑤ 犬の苦情件数	3,521件	1,500件以下	950件以下	基準値(平成18年度実績)の75%減を目標とします。	⑥ 犬の殺処分数	2,589頭	600頭以下	120頭以下	基準値(平成18年度実績)の95%減を目標とします。	⑦ 猫の殺処分数	4,014匹	2,000匹以下	1,600匹以下	基準値(平成18年度実績)の60%減を目標とします。	⑧ 動物愛護ボランティア登録者数	262名	400名	500名	基準値(平成18年度実績)の約2倍のボランティア育成を目標とします。	⑨ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数	0件	0件	0件	引き続き、違反が行われないよう、施策の進行管理を図ります。	
【代表指標】	基準値 (令和3年度実績)	中間目標 令和10年度目標	最終目標 令和15年度目標	数値目標の設定																																																																																													
① 犬の引取り数	162頭	120頭以下	80頭以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
② 猫の引取り数	1,438匹	1,080匹以下	720匹以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
③ 犬の捕獲頭数	382頭	290頭以下	190頭以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
④ 犬の苦情件数	878件	660件以下	440件以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
⑤ 猫の苦情件数	1,035件	780件以下	520件以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
⑥ 犬の殺処分数	122頭	90頭以下	60頭以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
⑦ 猫の殺処分数	1,035匹	780匹以下	520匹以下	基準値(令和3年度実績)の約50%減を目標とします。																																																																																													
⑧ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数	0件	0件	0件	引き続き、違反が行われないよう、施策の進行管理を図ります。																																																																																													
【代表指標】	基準値 (H18年度実績)	中間目標 H30年度目標	最終目標 R5年度目標	数値目標の設定																																																																																													
① 犬の引取り数	944頭	400頭以下	200頭以下	基準値(平成18年度実績)の80%減を目標とします。																																																																																													
② 猫の引取り数	4,031匹	2,000匹以下	2,000匹以下	基準値(平成18年度実績)の50%減を目標とします。																																																																																													
③ 狂犬病予防注射実施率	75%	100%	100%	我が国の隣国や多くの貿易相手国において、狂犬病が発生し、死亡者が多数発生していることから、万が一、国内に侵入した場合に備え、100%の実施率を目標とします。																																																																																													
④ 犬の捕獲頭数	2,229頭	850頭以下	450頭以下	基準値(平成18年度実績)の80%減を目標とします。																																																																																													
⑤ 犬の苦情件数	3,521件	1,500件以下	950件以下	基準値(平成18年度実績)の75%減を目標とします。																																																																																													
⑥ 犬の殺処分数	2,589頭	600頭以下	120頭以下	基準値(平成18年度実績)の95%減を目標とします。																																																																																													
⑦ 猫の殺処分数	4,014匹	2,000匹以下	1,600匹以下	基準値(平成18年度実績)の60%減を目標とします。																																																																																													
⑧ 動物愛護ボランティア登録者数	262名	400名	500名	基準値(平成18年度実績)の約2倍のボランティア育成を目標とします。																																																																																													
⑨ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数	0件	0件	0件	引き続き、違反が行われないよう、施策の進行管理を図ります。																																																																																													